

# さくらインターネット 2011年3月期 第1四半期 決算説明会

代表取締役社長 田中邦裕

2010年7月29日

さくらインターネット株式会社

(C)Copyright 1996-2010 SAKURA Internet Inc.

- I. さくらインターネットの特長
- II. 2011年3月期 第1四半期 業績報告
- III. 今後の展望
- IV. 新データセンター建設計画
- V. 今後の見通し

# I. さくらインターネットの特長

- コロケーションからホスティングまで幅広く展開
  - 顧客事業の成長ステージに合わせたサービスを、シームレスに提供できる豊富なサービスラインナップ

柔軟性・拡張性（高） / 導入簡便性（低）

柔軟性・拡張性（低） / 導入簡便性（高）

収益性（低） / サービス単価（高）

収益性（高） / サービス単価（低）

## 【コロケーション】

顧客が所有するサーバなどの機器類を、データセンターに設置するスペースと回線、電源などを貸与するサービス。

オープン  
スペース  
単位

個室  
(ケージ)  
単位

**ラック単位**  
ハウジング  
サービス  
(売上構成比)  
40.2%

## 【ホスティング】

データセンターが所有するサーバなどの機器類を、Web上で顧客が利用するサービス。

**専有ホスティング**  
専用サーバサービス

(売上構成比)  
41.4%

**共有ホスティング**  
レンタルサーバサービス

(売上構成比)  
18.4%

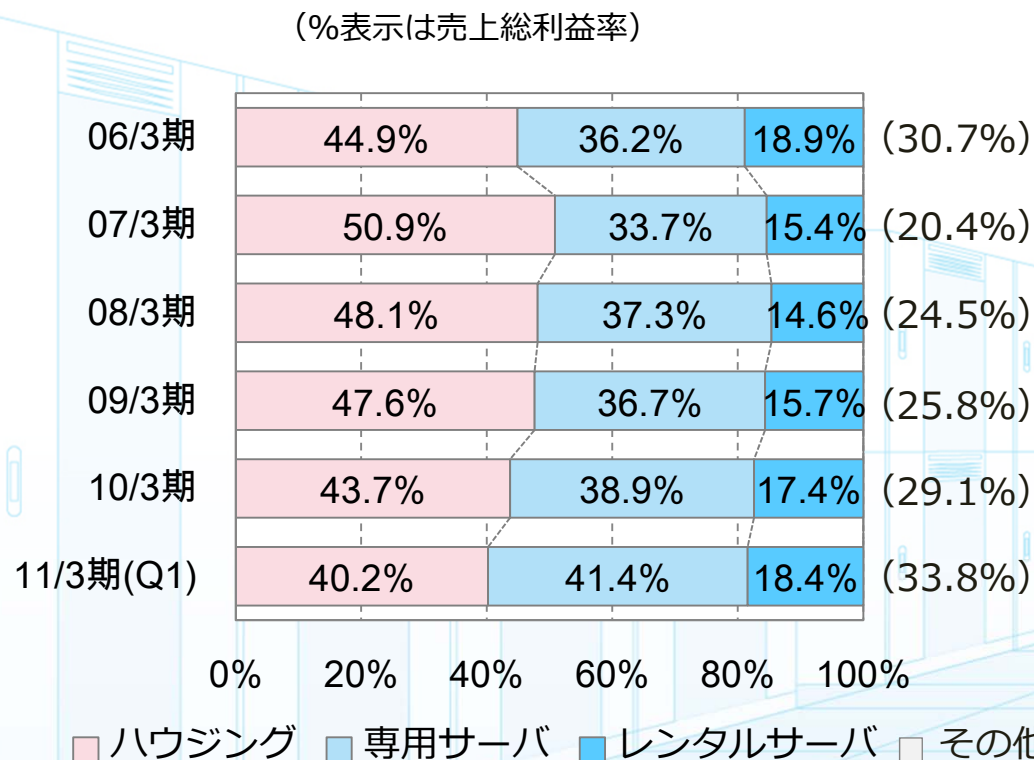
当社が提供するサービス

(※) 売上構成比は、2011年3月期第1四半期累計期間の売上高から、その他サービスの売上高を控除した、主要サービス（ハウジング、専用サーバ、レンタルサーバ）の売上高合計値から算出

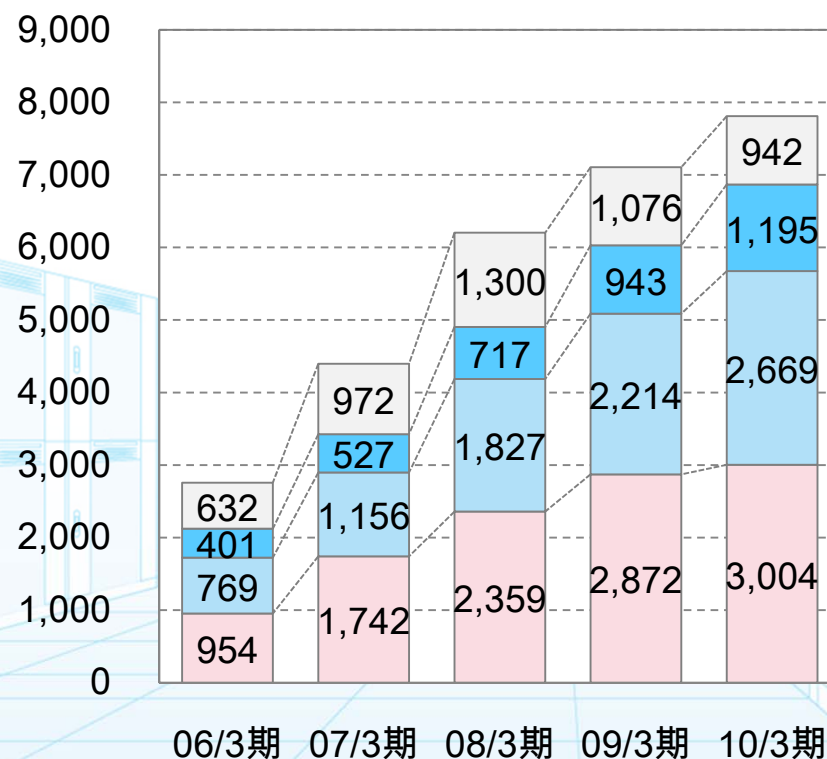
# ① 幅広い提供サービス

- 収益性の高いホスティングサービス（専用サーバ及びレンタルサーバ）の売上高構成比が高まる

主要サービス別売上構成比の推移



サービス別売上高の推移

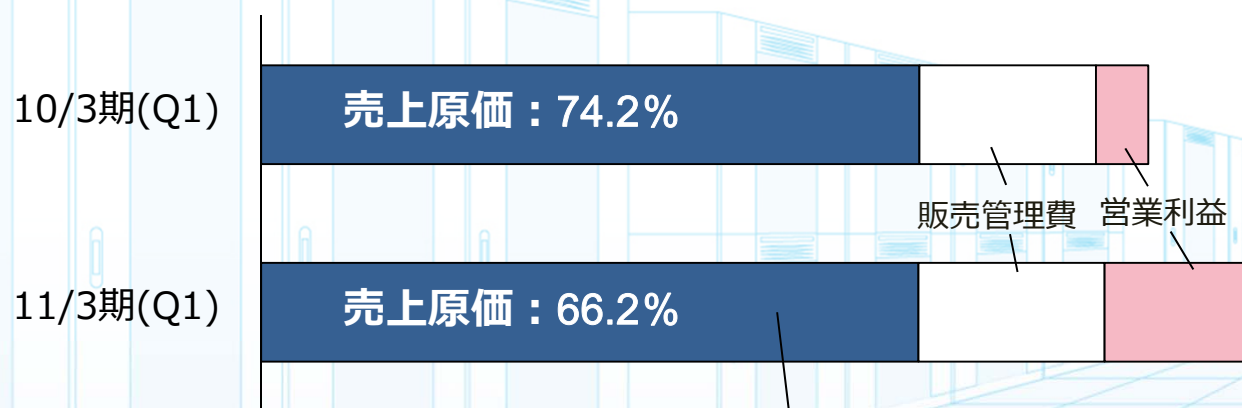


(※) 売上構成比は、2011年3月期第1四半期累計期間の売上高から、その他サービスの売上高を控除した、主要サービス（ハウジング、専用サーバ、レンタルサーバ）の売上高合計値から算出

- 充実した大規模ITインフラ
  - 自社運営の都市型データセンター / 東京4、大阪1
  - サーバラック総数 / 2,179ラック (2010年6月30日現在)
  - インターネット回線総量 / 213Gbps (2010年6月30日現在)
    - ※ インプレスビジネスメディア「インターネットデータセンター完全ガイド2010年夏号」『iDC なんでもランキング「インターネット回線総量Top20!」』にて第1位
- データセンター事業の全体最適を実現する運用管理体制
  - サービスの開発からサーバの構築、運用・保守、顧客サポートといった、データセンター事業に関するすべてのバリューチェーンを自社で対応
  - 自社ホスティングサービスに最適化した自社開発サーバを活用し、コストを削減
  - 自社データセンターにて、自社ホスティングサービスを運用しているため、安定して高いラック稼働率を維持

### ③ スケールメリットを活かせるビジネス

- データセンターを新設もしくは増床した場合、賃借料の増加や新たに設置した通信機器類の減価償却費が膨らみ、売上原価率が一時的に上昇するが、データセンターの運営コストの多くが固定費であるため、売上高が伸びれば利益率は大きく伸びる
- ホスティングシステムの自社開発や運用保守の内製化により、システムライセンス料などの変動費が不要



データセンターの運営コスト  
→ 労務費、賃借料、減価償却費（通信機器類）、電力費 など

## II.2011年3月期 第1四半期 業績報告



# ① 2011年3月期第1四半期の主な事業トピック

5月	ITインフラ 調達	堂島データセンターのホスティングサービス専用フロアにて、サーバラックを72基増設
	事業・サービス	コールセンターのスタッフを増員し、顧客サポート体制を改善
6月	ITインフラ 調達	国内最大級の郊外型大規模データセンター（北海道石狩市）の建設計画を発表
	事業・サービス	資本提携先の双日(株)から、営業部門の管掌役員として、新たに取締役を1名招聘
		専門知識が不要なホスティングサービスとして、「さくらのマネージドサーバ」Core 2 Duoプランを提供開始
	財務・資本	昨年8月に取得した自己株式1,610株を消却

## ② 売上高推移

(金額：百万円)

科目名	10/3期				11/3期 (Q1)
	(Q1)	(Q2)	(Q3)	(Q4)	
売上高	1,872	1,948	1,962	2,029	2,094
(ハウジング)	723	770	759	751	750
(専用サーバ)	599	642	677	749	772
(レンタルサーバ)	274	289	305	326	344
(その他)	274	246	219	202	227

- 都心部にデータセンターの新設・増床が相次ぎ、ハウジングサービスの受注環境が悪化
- ソーシャルアプリやモバイルコンテンツ市場の急成長などにより、ホスティングサービスの受注が好調

### ③ 損益推移

(金額：百万円)

科目名	10/3期				11/3期 (Q1)
	(Q1)	(Q2)	(Q3)	(Q4)	
売上高	1,872	1,948	1,962	2,029	2,094
売上総利益	483 (25.8%)	539 (27.7%)	594 (30.3%)	654 (32.3%)	706 (33.8%)
営業利益	110 (5.9%)	161 (8.3%)	201 (10.3%)	275 (13.6%)	314 (15.0%)
経常利益	101 (5.4%)	153 (7.9%)	194 (9.9%)	274 (13.5%)	309 (14.8%)
当期純利益	90 (4.8%)	<b>△43</b> <b>(△2.2%)</b>	176 (9.0%)	343 (16.9%)	108 (5.2%)

(※) %表示は対売上高比率

- 収益性の高いホスティングサービスの売上構成比が高まるにつれて、利益率が向上し、利益額も拡大傾向にある

## ④ 貸借対照表

(金額：百万円)

科目名	10/3期 期末時点	11/3期 Q1末時点	科目名	10/3期 期末時点	11/3期 Q1末時点
流動資産	1,872	1,946	負債合計	3,322	3,403
固定資産	3,204	3,277	うち 流動負債	2,792	2,856
うち 有形固定資産	2,587	2,709	うち 固定負債	530	546
うち 無形固定資産	99	90	純資産合計	1,755	1,819
うち 投資その他の資産	518	477	うち 株主資本	1,696	1,760
資産合計	5,077	5,223	負債純資産合計	5,077	5,223

## ⑤ キャッシュ・フロー

(金額：百万円)

科目名	10/3期				11/3期 (Q1)
	(Q1)	(Q2)	(Q3)	(Q4)	
営業CF	485	434	519	581	493
投資CF	△222	△355	△208	△207	△271
営業CF－投資CF	263	79	311	373	222
財務CF	△162	△232	△140	△144	△165
現金及び現金同等物の増減額	100	△152	171	229	56
現金及び現金同等物の四半期末残高	923	770	942	1,172	1,228

## III. 今後の展望

- 「所有」から「利用」へ、「構築」から「サービス」へとシフト

## 【所有】 【構築】

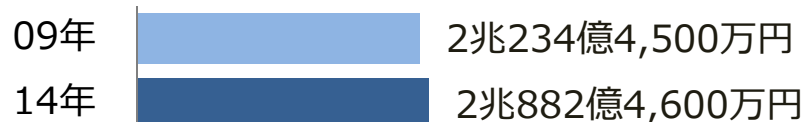
### ●国内サーバ市場



・09年から14年までの年間平均成長率：△2.9%

出典：IDC Japanプレスリリース(2010年5月)  
「国内サーバ市場予測を発表」

### ●国内ソフトウェア市場



・09年から14年までの年間平均成長率：0.6%

出典：IDC Japanプレスリリース(2010年4月)  
「国内ソフトウェア市場規模予測を発表」

## 【利用】 【サービス】

### ●国内データセンターサービス市場



・09年から13年までの年間平均成長率：12.8%

出典：IDC Japanプレスリリース(2010年1月)  
「国内データセンターサービス市場予測を発表」

### ●国内クラウドサービス市場



・09年から14年までの年間平均成長率：35.6%

出典：IDC Japanプレスリリース(2010年4月)  
「国内クラウドサービス市場予測を発表」

## 当社サービスの市場競争力がさらに強化

### ホスティングサービス

- サーバの仮想化技術を活用し、「さくらのVPS」を投入（2010年7月からテスト開始）
- 既存サービスの機能を継続的に強化

### クラウドサービス

- 「さくらのVPS」の運用ノウハウをIaaSサービスの投入に活用
- キーバリュ型ストア（KVS）の実用化に向けた研究開発を進め、PaaSサービスの提供を実現

## コストパフォーマンスに優れた幅広いサービスラインナップ

ITインフラ

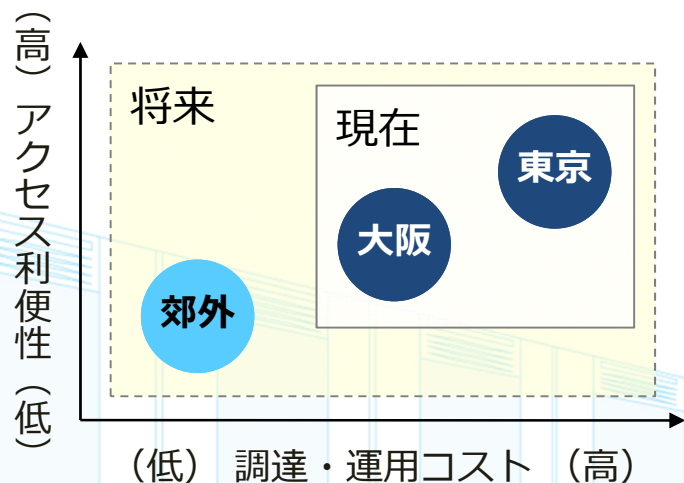
開発・運用体制

ブランド・顧客基盤

長年にわたり蓄積されたデータセンター事業の運営ノウハウと強み



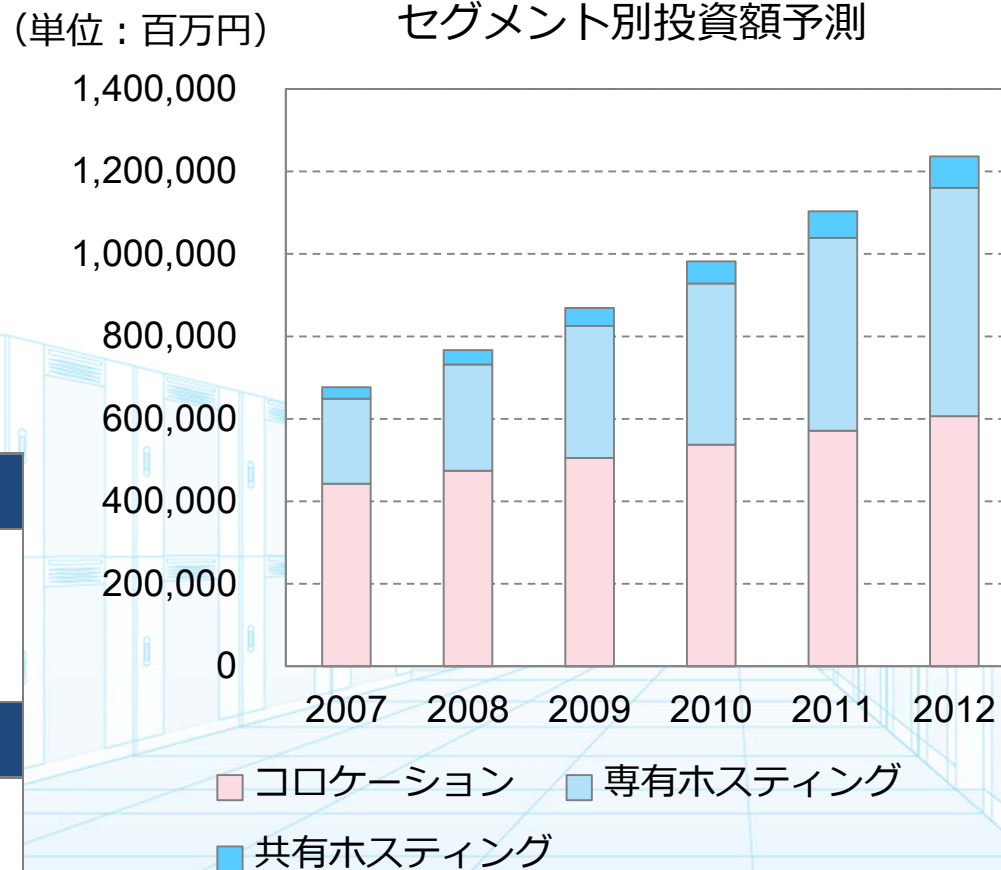
- サービス需要に応じた、データセンターのポートフォリオ組み替え



**ハウジング（コロケーション）**  
 利用者側で通信機器類やシステムの管理が必要となるため、アクセス利便性が求められる ⇒ 都市型必須

**ホスティング・クラウド**  
 インターネット経由で通信機器類やシステムの管理が可能であるため、アクセス利便性は必要ない ⇒ 郊外型が有利

国内データセンターサービス市場  
セグメント別投資額予測



出典：IDC Japanプレスリリース「国内データセンターサービス市場予測を発表」2009年4月

## IV.新データセンター建設計画

施設名	さくらインターネット 石狩データセンター（仮）
建設地	北海道石狩市
敷地面積	51,448㎡
建物構造	地上2階建・鉄骨造
建築面積	3,850㎡
延床面積	6,325㎡（1期棟）※最大8棟まで増築可能
ラック数	500ラック（1期棟） ※最大4,000ラックまで増設可能
供給電力	標準8kVA/ラック ※最大15kVA/ラック
設計施工	大成建設株式会社
竣工時期	2011年秋を予定

<完成イメージ>



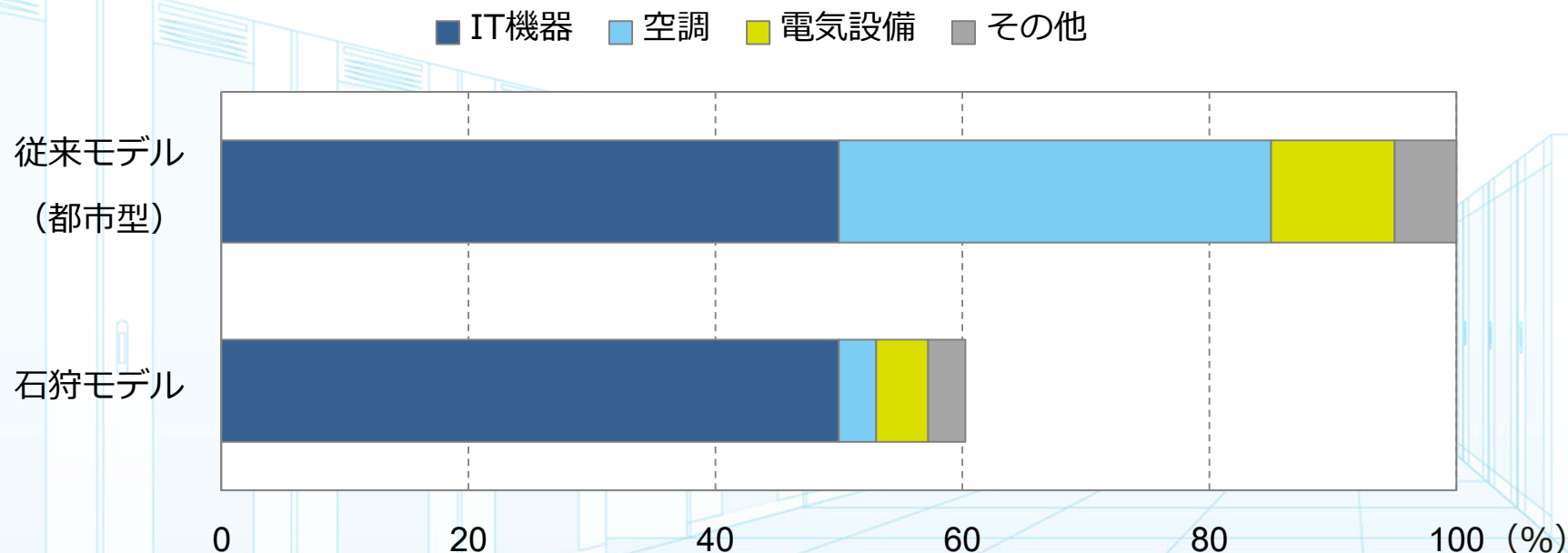
外観図（1期棟：500ラック）

- 札幌駅から車で約30分（約15km）、新千歳空港から車で約60分（約45km）の好アクセス
- 災害リスクの低いロケーション

## ② 新データセンターの特長

- 北海道の低温外気を100%活用（環境に配慮した低コスト空調システム）
  - ほぼ通年にわたって外気を活用し、空調コストを徹底的に削減  
※従来モデル（都市型）を100とすると石狩モデルは60

【データセンターの消費電力量 内訳】



※ 当資料は、「従来モデル（都市型）」と「石狩モデル」によるデータセンターの消費電力量の内訳を説明するために作成したものです。したがって、環境の変化などのさまざまな要因により、実際の結果と異なる可能性がある点をご承知ください。

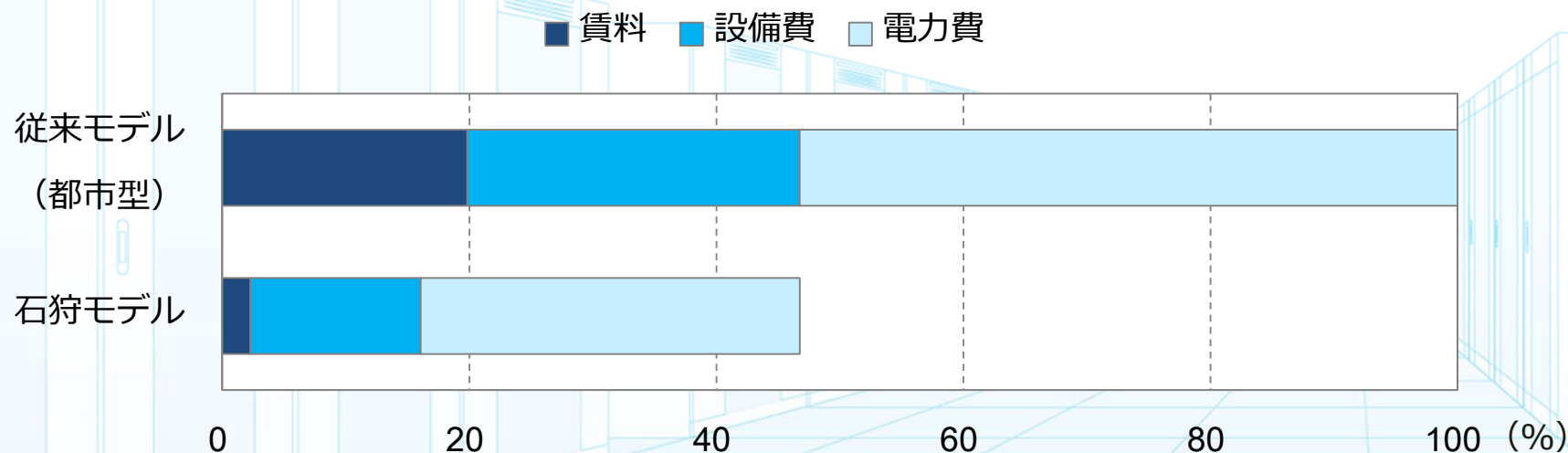
- 「郊外型」 + 「大規模」によるスケールメリットと柔軟性
  - 共用設備（特高受変電設備や事務棟など）の効率的な利用と、運用保守スタッフの生産性が向上
  - 分棟式を採用することで、当初から大規模な建物を建設する必要がなく、需要動向に応じた拡張計画が可能



▲全体図（最終8棟：合計4,000ラック）

- 国内のデータセンターサービス料金を、世界標準に押し下げる圧倒的なコスト競争力
  - 東京23区内のデータセンター対応ビルを賃貸した場合と比較して、石狩モデルのITコストは半分以下になると想定  
※従来モデル（都市型）を100とすると石狩モデルは47

【データセンターのコスト構造 内訳】

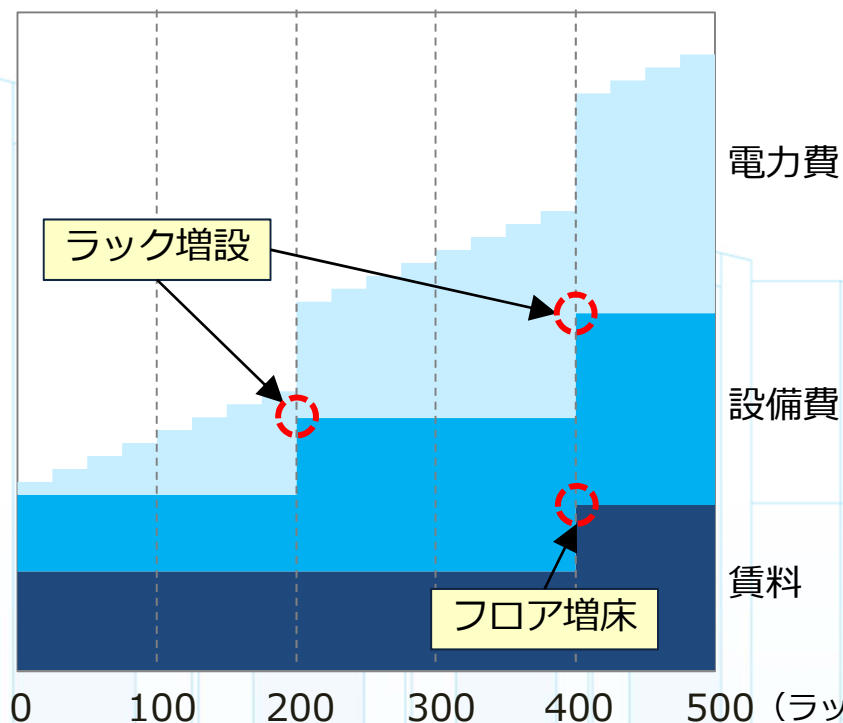


※ 当資料は、「従来モデル（都市型）」と「石狩モデル」によるデータセンターのコスト構造の概要等を説明するために作成したものです。したがって、環境の変化などのさまざまな要因により、実際の結果と異なる可能性がある点をご承知ください。

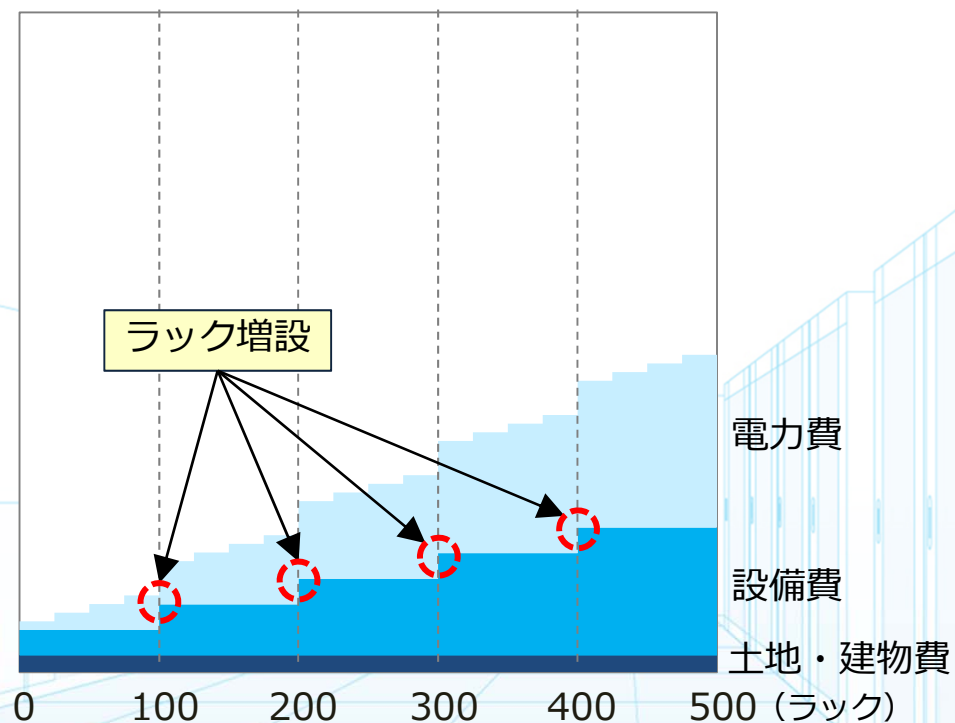
## ② 新データセンターの特長

- 圧倒的なコストパフォーマンスを実現するコスト構造

【従来モデル（都市型）】  
(コスト)

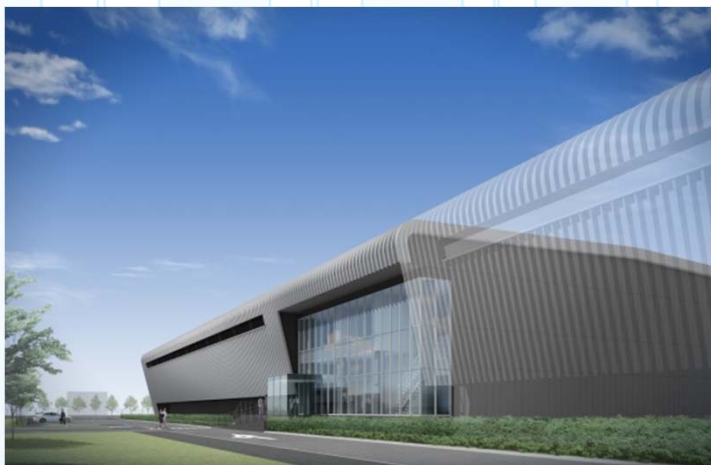


【石狩モデル】  
(コスト)



※ 当資料は、「従来モデル（都市型）」と「石狩モデル」によるデータセンターのコスト構造の概要等を説明するために作成したものです。したがって、環境の変化などのさまざまな要因により、実際の結果と異なる可能性がある点をご承知ください。

- 環境に配慮した様々な取り組みにチャレンジ
  - IT機器から排出される熱を、事務室の暖房などに活用
  - 自然エネルギー（風力・雪氷など）の導入検討
  - コンテナ型データセンターへの対応可能な設計



※ 新データセンターの建設による、2011年3月期業績への影響は現在、精査中ではありますが、その程度は軽微なものを見込んでおります。  
なお、2012年3月期以降の業績への影響についても精査中であり、計画の詳細が決まり次第、発表する予定です。



## V. 今後の見通し

- 営業体制の強化
  - Webマーケティングを活用した積極的な広告宣伝活動により、IT事業者への認知度をさらに高める
  - 一般企業への受注活動に特化した営業スタッフを、双日グループから迎え入れ、顧客層の拡大に向けた受注体制を確立する
- データセンターのポートフォリオの組み替え
  - 設備が陳腐化したデータセンターの機能を、他のデータセンターに移転し、事業の効率性と収益性の向上を図る
- 新規サービスの投入と既存サービスの強化
  - 2011年3月期中にクラウドサービスを投入する
  - 開発スタッフを強化し、新サービスの投入と既存サービスの強化にかかる期間を短縮する
- クラウドサービスの市場競争力向上に向けた研究
  - さくらインターネット研究所にて、仮想化技術やキーバリュー型ストア（KVS）、次世代電源技術など、クラウドサービスの市場競争力向上につながる先進的な技術研究を行う

(金額：百万円)

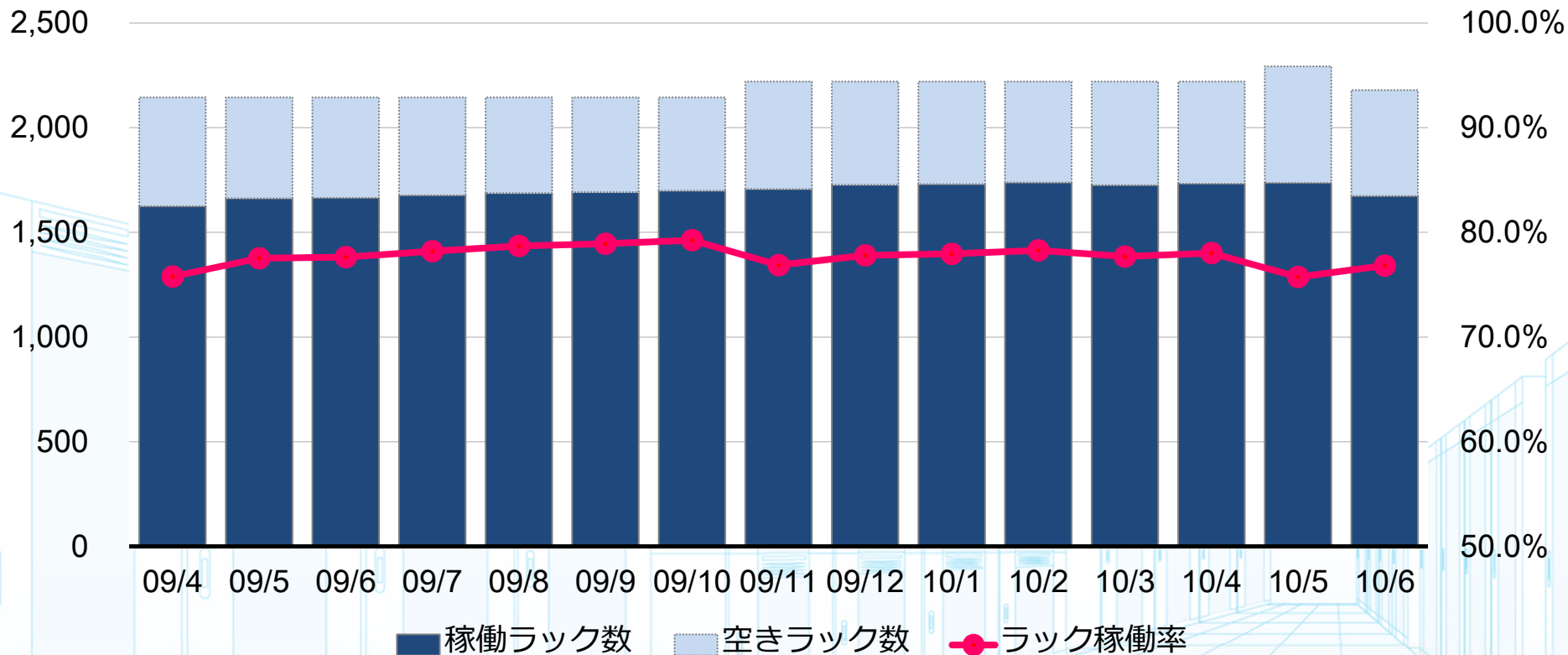
科目名	11/3期(Q1) 実績	11/3期(Q2累計) 予想	11/3期(通期) 予想
売上高	2,094	4,200 (49.9%)	8,700 (24.1%)
営業利益	314	540 (58.2%)	900 (34.9%)
経常利益	309	530 (58.4%)	880 (35.1%)
当期純利益	108	280 (38.7%)	520 (20.8%)

(※) %表示は第1四半期の業績から算出した予想進捗率

- Q2累計予想は、収益性の高いホスティングサービスの売上構成比が当初計画以上に高まったため、営業利益、経常利益、当期純利益を上方修正  
(2010年7月12日に発表)
- 通期予想は、先行き不透明な経済環境を考慮し、当初の予想値から修正せず

<b>商 号</b>	さくらインターネット株式会社（SAKURA Internet Inc.）	
<b>本 社</b>	大阪府中央区南本町一丁目8番14号	
<b>設 立</b>	1999年8月17日（サービス開始は1996年12月23日）	
<b>事業内容</b>	インターネットへの接続サービスの提供 インターネットでのサーバの設置及びその管理業務 電気通信事業法に基づく電気通信事業	など
<b>取 締 役</b>	代表取締役 社長 取締役 副社長 取締役 取締役 取締役 取締役（社外）	田中 邦裕 館野 正明 川田 正貴 澤村 徹 村上 宗久 瓦谷 晋一
<b>資 本 金</b>	8億9,530万円	（2010年6月30日現在）
<b>従業員数</b>	164名	（2010年6月30日現在）

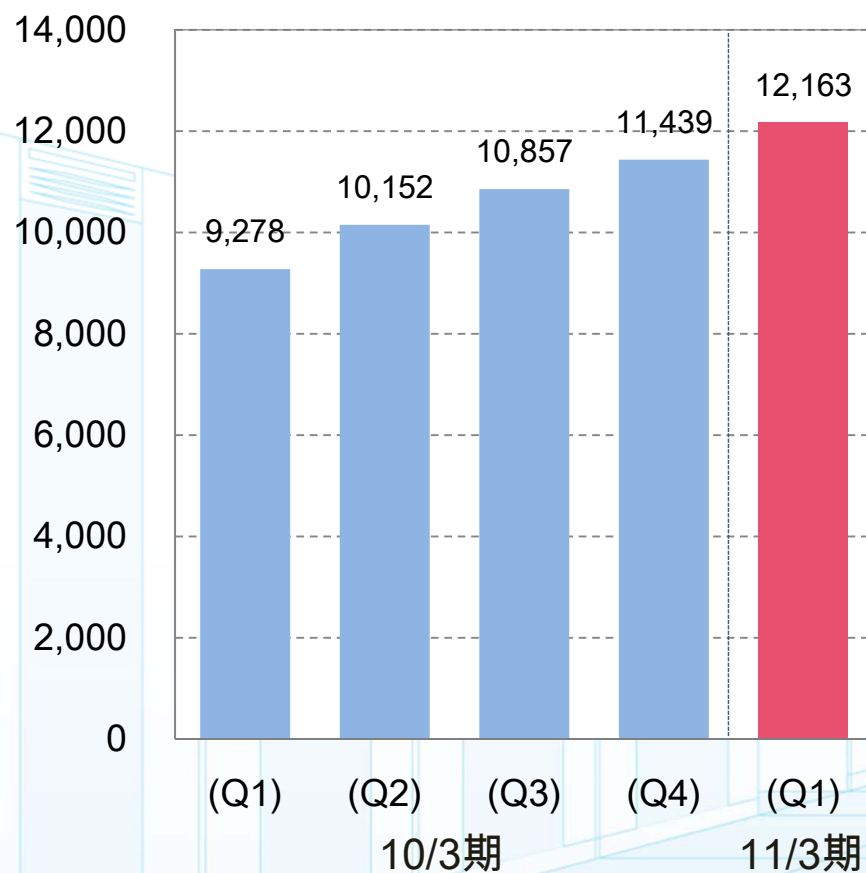
(単位：台)



- 堂島データセンター（ホスティング専用スペース）のサーバラックを09年11月（76基）と10年5月（72基）に増設。
- 10年6月に本町データセンターのサーバラックを撤去（113基）。

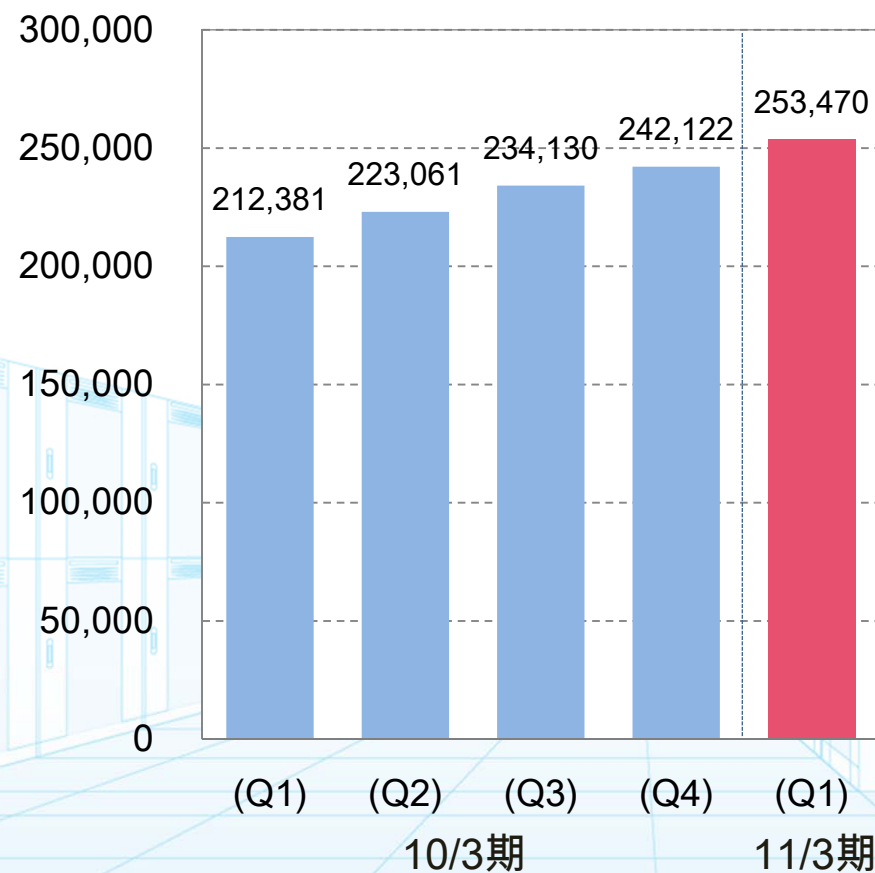
## 専用サーバサービス 契約件数の推移

(単位：件数)



## レンタルサーバサービス 契約件数の推移

(単位：件数)





- ※ 当資料に掲載されている業績予想などは、資料作成時点における弊社の判断に基づいており、その情報の正確性を保証するものではありません。  
さまざまな要因により、当資料記載の業績予想とは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

#### ■ IRに関するお問い合わせ先

さくらインターネット株式会社 東京支社

Tel : 03-5332-7070  
E-mail : ir@sakura.ad.jp  
担当 : 岡本